

「現地を訪問して想うこと」

今回のツアーは私にとって去年に続く2回目のツアー参加でした。家に帰るとツアー応募の詳細が書かれた校友会通信が届いていた。ああ、もうツアー募集の時期かと思いながら去年と同じく迷うことなく応募しました。私の会社でのキャリアは、来年秋から海外現地法人への出向が濃厚。日本人としてもう一度被災地の現場を見ておきたいというのもひとつの動機でした。あと、社会人3年目の未熟者ながら思うことは、すべては現場に答えがあるということ。現場を五感で感じ、思ったことを自分の言葉でリアルに語れるようにしておきたかった。

いざ被災地の現場へ行くと、もう2年半たっているのに復興はあまり進んでいないのかな？と思ったのが正直の感想。そのほかにも特に福島では放射能問題が深刻である。道路わきに積み上げられた汚染土、小学生は首から放射能を測定するガラスパイプを下げて生活している現状。先の見えない恐怖、なんだか何ともいえない切ない気持ちになったことを覚えています。

このツアーの良い部分は、東北のいい部分も体験してもらおうという趣旨の内容が盛り込まれていることである。観光、食といった参加者の興味をそそるものである。その中でも一番印象に残っているのは福島のりんご農園で食べた福島のりんごのおいしくて甘いこと。正直、とりこになりました。関西に帰ってからは、青森産でも長野産でもなく福島県産を選んで買っております。風評被害に苦しんでいるという農家さんの現状。でも私は思います。あれだけ厳しい放射能基準をクリアして市場に出回っているのだから安全なのではないか。むしろ、検査基準の甘い近隣の県産の食べ物のほうがもしかすると怖い！？のではないかとも感じた。今後、風評被害に苦しんでいる農家さんを応援したいと思います

最後に。被災地の皆様が仰るように、復興にはまだまだ時間がかかる。今回私たち参加者は被災地の現状を知った者として、何かの形で復興に携わるべきではないだろうか。関わり方は十人十色。私も今後どう言った形でという具体的なものは今の段階で申し上げられません。しかし、その使命を今回関西に持ち帰り私の今後の人生一部として心の中に留めておく必要があると感じます。

最後になりましたが、今回の東北応援ツアーに関わって頂いた全ての皆様に感謝、御礼申し上げます。

2013年11月17日

【匿名希望】